

第10号

南部箕蚊屋広域連合

まめ・カフェ通信

～第13回まめ・カフェ開催報告～

- 令和4年3月3日（木）13時30分～15時〔オンライン開催〕
- 参加者 31名（薬剤師、保健師、看護師、社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、認知症地域支援推進員 他）

※認知症サポーターステップアップ講座を同時開催

内 容

- 認知症サポーターのあなたに伝えたいこと
公益社団法人 認知症の人と家族の会鳥取県支部
吉野 立 さん
- 本人からのメッセージ
「認知症だからできることがある」
本人グループ 山陰ど真ん中
船原 良夫 さん・米村 功 さん

《参加者の感想》

- ・認知症に気づき動くタイミングが大切なのだ実感した。
- ・今までは認知症になってから周りがどう関わりケアするかと考えるのが通常だと思っていたが、それ以前の早い段階で安心して認知症になれる地域づくりが大切だと感じた。
- ・“一人では難しくても仲間がいればできることがある。大いに楽しんだ。”という当事者の言葉に、そういう視点の大切さに気づくことができた。
- ・当事者から話を聞ける機会は大変貴重だと思う。「何か目標をもってどんどんチャレンジしていきたい。」という言葉が印象に残った。

❖アンケート結果の一部をご紹介します。

ご協力ありがとうございました。次回も、皆さまのご参加をお待ちしております！

まめ・カフェとは??

医療や介護、地域に関わる私たちの仕事ってまめでなければつとまらない。

「まめなかや?（元気ですか）」と、こまめな声かけが関係づくりの第一歩!…多職種が気軽に集ってまめに話せる場所が欲しい☆という声からできたのが、

まめ・カフェです♪

吉野さんからは、「認知症になった」と言える地域づくりに向けて、人生100年時代の認知症との向き合い方や健康的な老化のために暮らしを見直すこと、認知症になっても希望をもって生きることができ、支えてくれる人たちとの新たなつながりを地域にみつけることの大切さについてお話しいただきました。

その後、山陰ど真ん中手作りカヌー工房のカヌー作成動画を観賞し、船原さんと米村さんのお話をお聞きしました。

お二人は、認知症になってもチャレンジをする気持ちや目標をもって向かっていくこと、同じ目標に進む同志や協力者の存在があり一人ではないということがこの活動の原動力になっていると話されました。

